# 須賀川水系河川整備計画

平成１３年６月

愛媛県

須賀川水系河川整備計画

# 目　　次


１．対象流域と河川の現況

1.1　計画対象区間 ---------- 1-1

1.2　計画対象期間 ---------- 1-1

1.3　流域及び河川の概要 ---------- 1-1

1.4　現状と課題 ---------- 1-4

1.4.1 治水の現状と課題 ---------- 1-4

1.1.2 利水の現状と課題 ---------- 1-5

1.1.3 河川環境の現状と課題 ---------- 1-6

1.1.4 流域の将来動向と課題 ---------- 1-7

２．河川整備の目標に関する事項

2.1 河川整備を実施する区間 ---------- 2-1

2.2 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標 ---------- 2-1

2.3 河川の適正な利用及び流水の適正な機能の維持に関する目標 ---------- 2-3

2.4 河川環境の整備と保全に関する目標 ---------- 2-3

３．河川の整備の実施に関する事項

3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要 ---------- 3-1

3.1.1 河川工事の目的 ---------- 3-1

3.1.2 河川工事の種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される事業の概要 ---------- 3-1

3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所に関する事項 ---------- 3-4

3.2.1 河川維持の目的 ---------- 3-4

3.2.2 河川維持の種類及び施行の場所 ---------- 3-4

3.3 その他河川の整備を総合的に行うための事項 ---------- 3-5

3.3.1 洪水対策 ---------- 3-5

3.3.2 流域のおける取り組みへの支援等に関する事項 ---------- 3-5

3.3.3 計画の見直し ---------- 3-5

## １　流域の現状と課題

### １.１　流域及び河川の概要

須賀川は、その源を愛媛県南予地方の宇和島市、広見町、三間町の境にある泉ヶ森(標高729m)に発し、広見町牛野川地区を南流し、同町水分において西に向きを変え、途中、光満川等の支川を合わせ、宇和島市の市街地を貫流し、宇和島市玉ケ月において宇和島湾に注ぐ、幹川流路延長約８km、流域面積37.8km²の二級河川である。このうち、支川光満川は幹川流路延長約８km、流域面積17.4km² で須賀川水系の半分程度を占め、本川と二分する規模を有する。

流域は、南予地方の中核都市である宇和島市における社会・経済・文化の基盤を成すともに、豊かな自然環境を有している。

流域の気候は太平洋気候に属し、年平均降水量は約1,600mm、年平均気温は16.5度（平成３年～平成７年；宇和島観測所）と温暖な気候を示すが、降水量は梅雨期から台風期に集中する。

流域の土地利用は、総面積の約60%を山林が占め、次いで畑、宅地、田となっており、宅地や農地などに利用できる国土が非常に限られている。

流域の人口は漸減傾向であるが、世帯数は増加傾向にあり、核家族化が進んでいる。

須賀川の上流域の一部は、足摺宇和海国立公園区域に指定され、多様な動植物が生息しており、良好な自然環境を形成している。河川に沿った緩斜面は、主に果樹園として利用され、他の斜面地はスギを中心とした植林地や竹林、オンツツジーアカマツ群落等が見られる。

また、中下流域は、伊達十万石の城下町である宇和島の市街地を貫流しており、沿川には八幡(はちまん)神社、和霊(われい)神社、多賀(たが)神社等多くの史跡や文化財を有し、７月下旬に行われる「和霊大祭」及び「うわじま牛鬼まつり」では、全国から多数の観光客が訪れる。

河川水の利用については、古くから水道用水や農業用水に利用されており、現在も宇和島市の水道用水及び下流水田等の農業用水として、須賀川ダム等より供給がなされている。

## 1.2　現状と課題

### 1.2.1 治水の現状と課題

#### (1)　現状

須賀川の治水事業については、昭和５年から下流部を北側寄りに付け替える工事が行われ、現在の流路に至っている。その後、昭和１８年７月の洪水を契機に、昭和２１年から中小河川改修事業に着手したが、沿川の目覚ましい発展や、昭和３８年８月の洪水による浸水被害により、抜本的な対応策として、須賀川ダムを建設(昭和52年３月完成)した。その後は溢水による氾濫被害は報告されておらず、現在に至っている。

須賀川の第一支川である光満川は、流域面積が須賀川水系全体の約46%を占め､本川と二分する規模を有する河川である。光満川は、部分的な補修工事等は行われているが、一定区間の河川改修はなされていない。特に須賀川合流点より上流約1.7㎞区間は、人家連担区域で狭窄部を有しており、堤内地盤高も他の区間に比べ低いことから、昭和63年６月洪水では227棟の浸水被害が発生した。その後も平成５年９月、平成７年７月洪水等、たびたび洪水被害が発生している。

高串川は、過去に浸水被害が発生しているが、浸水の規模は光満川と比較しわずかである。

正シ川及び金丸川は、洪水による浸水被害は報告されていない。

#### (2)　課題

光満川は洪水によりたびたび氾濫を起こしており、沿川住民も常に不安を抱えていることから、早急な治水対策が必要である。

### 1.2.2 利水の現状と課題

(1)　現状

須賀川水系においては、古くから河川水を、水道用水や農業用水に利用してきた。

水道用水については、須賀川において、須賀川ダムより許可水利として利用されている。なお、須賀川ダム直下地点から下流においては、既得水利はない。また、平成元年からは、水道用水の安定供給を図るため、流域外に位置する野村ダムから水道用水の供給が行われており、須賀川ダムと併せた効率的な水利用が図られている。流域内のその他の河川においては、水道用水の利用はなされてない。

農業用水については、須賀川において、須賀川ダムより許可水利として利用されている。なお、須賀川ダム直下地点から下流においては、既得水利はない。光満川、高串川及び金丸川においては、慣行水利として農業用水に利用されている。近年は、農地面積が減少傾向にあり、取水量も減少傾向にある。正シ川では、農業用水の利用はなされてない。

その他の水利用はなされてない。

(2)　課題

須賀川流域は、近年流況が悪化傾向にあるため、効率的な水利用を行う必要がある。また、適正な水利用を図るため、取水量等の現況把握に努めていく必要がある。

### 1.2.3 河川環境の現状と課題

#### (1) 現状

須賀川水系の河川は、水源から河口までの距離が短く、下流域に近い所まで山地が迫り、土地利用が限られていることなどから、河口の縦断方向に対する自然環境や社会環境の変化が急激である。

流域内の植生は、スギを中心とした植林地や竹林、オンツツジーアカマツ群落等の他、シイ・カシ萌芽が急峻な山地斜面に残存している。緩傾斜地は、果樹園としての利用が多く、残された部分も代償植生が分布している。河道内植生は、上流域の河川敷きにツルヨシ群落、オギ群落、ヨモギ群落等が見られ、上流域の河岸にダンチク群落やメダケ群落が見られる。

流域内の魚類については、上流域にオイカワやカワムツ等が見られ、下流域にボラ等が見られるが、特定種は見られない。底生動物は、上流域にミズムシ、コガタシマトビゲラの他、特定種であるナガオカモノアラガイが発見されている。

河川空間については、和霊大橋から道連橋にかけて魚類の遡上・降河や親水性に配慮した落差工と親水護岸が整備され、その上流部には、階段護岸や自然石を利用した根固が設けられている。支川光満川についても、下流の一部区間では植栽ブロックと階段護岸が整備されている。これらは、子供が水とふれあえる場、また散策路として利用されており、地域の人々に潤いを与えている。

河川の水質は、環境基準点は設定されていないが、定期的に水質観測がなされており、水質観測結果（ＢＯＤ）によれば75%値で須賀川（須賀川ダムより下流）でＢ類型～Ｃ類型程度、支川光満川でＡ類型程度となっている。

現状では、須賀川の水質は良好とは言い難いが、現在宇和島市の公共下水道が整備中であり、将来においては改善される見込みである。

#### (2) 課題

須賀川流域の河川は、特定種をはじめとする動植物の生息・生育環境を保全・再生し、日常の潤い空間として整備する必要がある。

### 1.2.4 流域の将来動向と課題

(1)　現状

宇和島市は伊達10万石の城下町として、独特の歴史と文化を育んできた。

宇和島市は、自然と調和し、潤いと活力ある豊かな宇和島を将来都市像とし、高次な都市基盤と都市機能の整備、ゆとりと潤いのある生活空間づくり等の為、以下のとおり整備を行うこととしている。

1)　交通体系の整備（56号宇和島道路整備）

2)　基盤整備（宇和島港港湾整備）、再開発（宇和島駅周辺地域再開発）

3)　都市機能整備（公共下水道整備）

4)　生活環境の整備（丸山公園整備）

平成10年10月に策定された「愛媛県新観光振興計画」によると、宇和島は「じっくり堪能できる愛媛（歴史文化堪能）」の中に位置づけられており、「歴史文化を今に現す都市や祭・イベントの活用と、じっくり堪能するのに不可欠な観光情報の充実」を重点テーマとしている。

また、「宇和島市都市マスタープラン」において、須賀川流域に属する地区の将来像を、次のように掲げている。

1)　高光地区（光満川中上流域）；豊かな自然と調和した農住ゾーン

2)　和霊地区（須賀川中上流域、光満川下流域）
；ゆとりと便利さを兼ね備えた都市型居住ゾーン

3)　大浦地区（須賀川下流域）；工業を中心とした多彩な産業臨海ゾーン

このうち、大浦地区に占める割合は低いことから、平地部は都市型居住ゾーン、山地部は農住ゾーンと位置づけられる。

(2)　課題

須賀川ダム付近を含む河川の下流部は、市街地に面した公園緑地として貴重である認識がもたれており、河川工事等の際には、横断計画等について配慮する必要がある。

須賀川水系は、独自の歴史文化を育んでいる地域であり、河川工事等の際には、埋蔵文化財の情報把握等について配慮を行う必要がある。

## 1.3 計画対象区間

河川整備計画の対象区間は、二級水系須賀川流域内の法河川（５河川、約24km）全区間とする。

## 1.4 計画対象期間

計画対象期間は、今後20年間程度とする。